



創立 2011年6月17日  
SAITAMA UKISHIRO  
JAPAN

# 埼玉浮き城プロバスクラブ

2022,1,21 発行  
No. 127



例会日 毎月第3金曜日 ホテル ガーデンパレス 熊谷市佐谷田 3248 TEL048-525-7777  
事務局 〒360-0823 埼玉県熊谷市榎町 106 (幹事 岡安眞也方) TEL・FAX 048-521-3359  
会長 根岸 友憲 副会長 木島 隆夫 幹事 岡安 眞也 情報委員長 椎橋 俊夫

## 本日のプログラム

### 第128回 通常例会

国歌斉唱・プロバスソング斉唱(プロバス賛歌)

会長挨拶

会長 根岸 友憲

幹事報告

幹事 岡安 眞也

委員長報告・同好会報告

新春祝いの舞

西川 扇由女(大澤由子)

バスディ報告と会員スピーチ

安部節子会員他8名

ハッピーボックス披露

例会委員 柿沼 孝枝

閉会

例会副委員長 田口覇洲男

<第127回例会出席率 会員34・出席28・出席率82%>

### 第127回(12月17日) 通常例会

#### 幹事報告

幹事 岡安 眞也

コロナ禍第5波が終息し、行田に於て10月1日起算90ヶ日の内、78ヶ日は新規感染者ゼロでした。以て、この時期、11・12月例会及び右記のディナーコンサート開催としました。

引続き、1月例会を開催とし、年賀の「新春踊り初め」を西川扇由女師範に舞って頂きます。

心からの、拍手をお贈り致します。

## クリスマスデナーコンサート開催

12月15日久々の忘年会「あれぐりあ大陸」によるワールドミュージックコンサートが開催されました。多くの中南米民族楽器を使用した、素晴らしいコンサートでした。(参加者 29名)



お祝い  
12月誕生日  
を迎えられた  
会員



保泉 欣嗣会員



加藤 力也会員

## 会長スピーチ

会長 根岸 友憲



新年あけましておめでとうございます。

皆様には、本年も変わらずご健勝にてよいお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、相変わらずコロナウイルスデルタ株の蔓延が終息せず、日常生活の行動も制限されたとおもいますが、今年は従来通りの日々の生活を取り戻されることと、埼玉浮き城プロバスクラブでの活動もより一層楽しく実のあるものになりますよう祈っています。

私事ではありますが、毎年新年を迎えますと新たな気持ちなり、昨年やり残したことを成し遂げたいと思いますが、いつもと変わらない一年を過ごしてしまいます。皆様方も多分『一年の計は元旦にあり』と気持ちを切り替えて新しい年をお迎えになったと思います。

しかも毎年確実に年齢を重ねます。「歳を取

るのは仕方がないが、年寄りになる必要はない」と言う格言があります。この意味するものは肉体年齢と精神年齢を混同してはいけないと言う戒めです。年齢に関係なく今自分のできることを精一杯やりながら楽しく過ごしていけたら最高だと思います。

昨年七月からの、埼玉浮き城プロバスクラブの活動ですが二年前に世界的にパンデミックを引き起こしたコロナウイルスが、日本でも蔓延しては終息し第一波から第五波まで続き例会等の活動も思うようにいかず、気が付いたら本年度も早六ヶ月を残すのみとなっていました。第六波が起きない事を願うばかりです。

年も改まり一月の例会は例年通り、西川扇由女先生の新春の舞から始まります。ご家族同伴いただきましたので、新しい気持ちをもって楽しいクラブ活動を執行部一丸となって執り行って参りたいと思います。

## ハッピーボックス発表

◎今年も残り少なくなりました。皆様方もお元気に過ごされたと思います。先日、無事忘年会クリスマスコンサートを行い、親睦委員会の山田様を初め、皆様のおかげで好評を得ました事感謝しています。(根岸会長) ◎今、古い物置き小屋を改修中です。腐った土台をはずし、新たに基礎コンクリートをつくりました。昨日防腐土台を設置、アンカーボルトが一発で収まりました。ハッピーな日でした。(木島副会長) ◎12月15日忘年会クリスマスコンサートの盛会をお喜び申し上げます。特に山田親睦委員長の御高配に感謝いたします。森田会員の今日の卓話楽しみです。(岡安幹事) ◎過日のクリスマスコンサートでは大変なお世話になりました。役員の方々出席会員の方そして親睦委員会の皆様には強力な御後援

を戴きました事感謝申し上げます。(山田親睦委員長、保泉副委員長) ◎過日のクリスマスコンサート楽しく参加出来ました。山田委員長様大変に御苦労様でした。(赤松、須郷、鈴木、清水) ◎会長ノミニー鈴木民儀様御就任おめでとうございます。御活躍を期待しております。(鴨田) ◎新刊「影の首相」を読みました。歴代官房長官を採点するもので梶山静六氏最高点、河野洋平氏零店、面白い本でした。(木村) ◎本年最後の例会です。コロナの終息を願うばかりです。(大澤、岩崎、柿沼、田口、藤倉、渡辺、椎橋) ◎「また会えてよかった。」例会に出席出来るたびに思います。例会での事は特別ではないが、そのあたりまえの事が出来るのが大切な事と思う様になりました。健康で頑張りましょう。(石塚、加藤、小島、小山、高橋、武笠、畠山、森田、山本) 文責 中島捷二



### 第126回 例会卓話

#### 「履歴書 楽しかった仕事」

森 田 義 弘

昭和29年8月熊谷市生まれです。中学高校大学とクラブ活動で音楽に携わってきました。吹奏楽、オーケストラに所属しクラリネットを担当していました。以来、音楽鑑賞を趣味としています。家族や、友達に音楽関係者がいるので音楽を聴く機会には恵まれており、多くの鑑賞の機会があり気分転換に役だっています。

大学を出てキヤノンに入社しました。当時は今ほど大企業ではなく、下丸子の本社工場で研修を受け、レンズ工場に配属されました。当時はカメラと複写機を二本柱にしていました。カメラではAE-1、A-1、F-1が良く売れていました。配属されたレンズ工場では検査を担当しました。今はロボットが担っていますが、当時は多くの女子工員が長いベルトに沿って、流れ作業で組み立てていました。担当した工程では30人ほどの女子工員が割り当てられていて沢山の若い女の子に囲まれて、とても楽しい職場でした。当時の工場は午後3時くらいには終わっていましたので、時間が有りまして、日本でも最初の週休二日になっていましたので、川崎でよく遊んだものでした。そのうちに新型カメラやズームレンズがヒットして大忙しとなりました。毎日出荷される製品を見て、カメラとはこんなにも売れるんだと驚いたものです。それから欧米への輸出も好調になり、日本の経済と共に右肩上がりになって、売り上げもどんどん上がって行きました。

キヤノン販売に移籍して、各地に転勤しました

が金沢に転勤した時が一番楽しかったです。家族は今でも、もう一度金沢で暮らしたいと言う程です。観光地として山や海はもちろん兼六園や金沢城も近くにあり、幼稚園だった子供を育てる環境でも大変よかったと思っています。職場の近くに近江町市場が有りましたので、食事もしました。金沢の食では何と言っても私のお勧めはブリ大根です。しめ鯖、香箱蟹も美味です。金沢片町の表通りから一本裏に入った旨いおでん屋によく通いました。日本酒の宝庫でしたので、日本酒にも詳しくなりました。

その頃カメラに新技術、オートフォーカス機構が開発搭載され注目されました。ジャスピコニカ、キヤノンオートボーイが発売され良く売れました。ミノルタα7000、キヤノンEOS650が発売されオートフォーカス時代をけん引しました。その後デジタルカメラが開発されました。偵察衛星の技術であるCCDはコダックが担当し、カメラ本体はニコンとキヤノンの2社で担当しました。それが今のプロ用デジカメの誕生となります。世界一のフィルムメーカーだったコダックは今は残っていません。フジフィルムは化粧品や医療分野、工業フィルムの世界で生き残っています。その後カメラ各社はデジタル一眼レフの開発製造に拍車をかけます。プロ用カメラのシェアは使ってくれるプロカメラマンの数で判ります。当時私は銀座のキヤノンサロンというプロ専用の拠点に勤務をしていました。そこは写真展示用のギャラリーと修理センターがありました。そこには多くの有名カメラマンたちが集っており、ギャラリーには地下室が有り、別名キヤノンサロンと呼ばれていました。カメラマンたちは仕事として夕刻キヤノンサロンに立ち寄り、カメラを点検させ、そのうちどこからか



ビールが出てきたわけです。奥の冷蔵庫に缶ビールがたくさん冷やしてありました。それから銀座に繰り出していました。そんな妙なサービスもやっていたわけです。

その後、報道部門を担当する部署を任されました。新聞社との繋がりには古くからありました。カメラ機材の修理を担当したわけです。報道カメラマンの機材は、常に調整をしなければなりません。ベトナム戦争にもキヤノンからサービスマンが派遣されています。オリンピックの会場にまで出向いてサポートして、多くの貸し出し用カメラやレンズを無料で用意したり、修理したりしていました。その活動がカメラマンからの信頼の高さにつながります。100メートル決勝を撮影するカメラ

マンの姿を、ズラリと並んだ望遠レンズの一団が報道されました。その姿をアマチュアカメラマンがテレビや新聞で見て、そのカメラに憧れるわけです。その望遠レンズはニコンの黒レンズとキヤノンの白レンズがあります。その一団を見るとシェアーが一目瞭然です。ニコンとキヤノンの白黒競争として話題になりました。他にもサッカーのワールドカップ、F1 レース、フィギュアスケート、テニス、ゴルフ等の多くのスポーツの分野でサポート部隊は活躍しています。

これからの日本の経済活動はどのようなものか、今までの常識にない企業が多く出ています。後生畏るべし！若い人たちの活躍を祈念しています。

## 会 員 投 稿



### 令和3年を振り返って

須 郷 隆

令和3年を要約すれば、社会的・経済的にも全ての事がコロナ禍に始まりコロナ禍に終わる1年だったと思います。

前年初めに発生した新型コロナウイルスの勢いは、年初より更に強まり爆発的な感染状態の中スタートしました。途中感染者数は、増減を示しながらワクチン接種の効果が表れ始めたのか10月以降感染者は劇的に減少し、このまま収束に向かうのか大いに期待が高まりました。然しながら、12月初めよりデルタ株に変わるオミクロン株が世界を席卷し始めています。今後どのように推移していくのか現時点では全く予測できませんがワクチン接種等により感染拡大を防ぎ安心して生活出来る日々が来る事を願っています。

このような状況の中、自身の生活を振り返ると、「プロバスクラブ創立10周年記念式典の開催と記念誌発行」、「友との別れ」、「思い違い？」の3項目が記憶の大部分を占めています。

1月7日に東京・埼玉・神奈川・千葉の1都3県に緊急事態宣言が発出され、当クラブも1・2月の例会は中止せざるを得ない状況になりました。4月には創立10周年記念式典が予定されており、式典開催の可否について悩む中、宣言発出に基づく行動規制により3月に入り感染者数は減少傾向を示した為、規模を縮小しながらも式典を開催する事が出来ました。この間、会員の皆様がすべて健やかに過ごされておられた事が1番の安心事で

ありました。

コロナ禍による蟄居生活が続く中、親しくしていた友人・同僚・先輩・後輩等の内何人かが、この2年間1度も顔を合わす事もできないまま幽明境をことにしました。訃報を聞くたびに無念さや寂しさがつのると共に、在りし日の居酒屋等での語らいがその度に思い出されました。自身も間もなく83歳になる身であり、互いに別れはそう遠くないと自覚しながらも、1度も会えないままの別れは残念でなりませんでした。

11月のある朝、NHKの朝ドラを観ていたら、昭和20年8月15日、ラジオで「只今より天皇陛下（昭和天皇）のお言葉（勅語）がありますので皆様ご起立下さい」と放送され、市民が皆起立し頭を下げている場面が放映されました。

このテレビを観るまで小生の記憶では、父母や家族は皆座敷に座って身じろぎもせず聴いていたとばかり思っていました。勿論小学校の1年生であつた小生も親の厳しい表情の中、座らせられ、放送の中身は分からぬままに唯々足がしびれてどうしようもなかった事、加えて放送後も母より、大きくなったら敵を取れと言われた事だけが記憶として今日まで残っていました。然しながら、このテレビを観て自分が今まで記憶していたことは、「足の痺れ」を除き全て親から後刻聞いた事を自分なりに組み立てた記憶なのかもしれないと思うようになりました。

それ以外にも保育園時代の思い出として残っているいくつかの事も、ひょっとしたら祖母や父母から後刻聞いた思い出話が自身の記憶として今に残っているのかと思った次第です。

記憶というものの曖昧さを改めて認識しましたが、多少の思い違いはあったとしてもあれこれ詮

素せず、思い出は思い出としてそのままを大切に  
して行くのが良いのではと今は思っています。

終わりに、改めまして令和4年が、コロナ禍か

ら真に解放され安心して自由に行動でき、生活で  
きる年となる事を切に願い祈っております。



### 老いとは情熱の欠如にほかならぬ

鈴木 民 儀

澄みきった空の下で、スポーツに汗を流してい  
る若者を見て、若いな、うらやましいな、と思  
います。

若さとは、澄みきった瞳、薔薇のような暖か  
みをもった面差し、紅の唇、そしてしなやか  
で、疲れを知らない身体をさすことはいま  
でもありません。

しかし、それらは年をとるに従って、衰え  
を増していきます。顔や肌の色つやは衰  
え、足腰や手は思うように動かなくなり  
ます。

お釈迦様は老いを人間の四つの苦しみ(生老  
病死)の一つに上げており、古代中国の人  
々は「不老長寿」の薬を求めて世界を旅  
したと伝えています。

老いも死も人間にとって避けることのでき  
な

いものである。

しかし、「永遠の青春」ということばもあ  
ります。私たちの周辺をみても、七十歳  
や八十歳の老人で若さを強く印象づけ  
られる人もいます。

「二十歳の老人、七十歳の青春」と負け  
惜しみでなくという人もいます。若さ  
とは身体だけをさすものではなく、心  
の持ち方をいうのであると思います。

サムエル・ウルマンという人は次の  
ように言いました。

「青春とは人生のある期間をさすの  
ではなく、こころの持ち方をいう。青春  
とは弱気と引っこみ思案を退ける勇気、  
安易を振り捨てる冒険心を意味する。

ときには二十歳の青年よりも六十歳  
の人に青春がある。年を重ねただけで  
人は老いない。理想を失ったとき初め  
て老いる。」まさに青春とは逞しい意  
志、豊かな想像力、燃える情熱をさす  
ものではないでしょうか。私もそうあり  
たい。



### 高市さんの人気

清 水 孝 男

自民党総裁選に出馬した高市さんは、  
次のように語っていた。

「日本を安全で力強い国にしたい。とい  
う思いです。経済が相当弱ってきてい  
るのに、五年先、十年先に必ず起こ  
る事態に向けた取り組みが、何一つ手  
つかずであることに相当な危機感を  
持っています。一刻の猶予もないと思  
っており、ものすごい焦りがあります。  
今着手しないと間に合いません。だ  
から何が何でも立候補したいとお  
もいました。」(月刊「正論」10月号)

これに対して評論家の西尾幹二氏は、  
私の胸に真に突き刺さった言葉で、共  
感の火花を散らした。21世紀の初頭  
には技術産業国家の1、2位を争う  
国であったのに平成年代にずり落ち、  
各国に追い抜かれた。ロボット王国  
のはずだったのに、今やAI(人口知  
能)ロボット分野で中国の後塵を

拝している。世界的な半導体不足は  
日本のこの方面の復活のチャンスと  
聞いていたが、かつて円高誘導とい  
う米国の謀略で台湾と韓国にその主  
力は移った。実力はあっても今では  
もう日本に戻りそうもない。

毎年のように列島を襲う風水害の被  
害の大きさは国土強靱化政策も唱え  
た安倍晋三内閣の公約違反であり、  
毎年同じ被害を繰り返すさまは天災  
ではなく、すでに「人災」の趣があ  
る。

台湾情勢は戦争の近さを予感させ  
る。尖閣諸島(沖縄県石垣市)周辺  
のきな臭さを国民の目に隠したまま  
ではもう済まされない限界がきてい  
る。少子化問題は民族国家日本の消  
滅を予示しているが、自民党の対策  
は常におざなりで本腰が入っていない。

ただ一つの例外は高市氏の出現だ。  
氏の新刊書「美しく、強く、成長す  
る国へ。」(ワック)を見るがいい。  
用意周到な政策論著である。私が  
冒頭にあげた日本人の今の怒りと焦  
りがにじみ出ている。同書はアマ  
ゾンの総合1位に駆け上った。